一般選抜試験（B日程）問題

現代の国語（六〇分）

（服飾文化専攻、健康栄養学専攻）

第一問　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、形式段落第七段落まで段落冒頭に段落番号を付している。

1　多くの若者が友人には悩みを相談しないようなのですが、この現象も対等性の原則から理解可能です。

2　学生に、〝あなたは友人に悩みを打ちあけるか、打ちあけないとしたらその理由は何なのか〟というテーマのレポートを何年かだしてきました。

3　すると多くの学生が、友人に悩みを打ちあけたり相談したりしない、と答えたのです。学生があげた理由はさまざまですが、とくに目をひいたのが、「もし相談したら、相談した自分が相手よりも一段下の立場になり、対等な関係でなくなるから」という答えと、「友人といっしょにいる時間は限られているのだから、せっかくの時間を相談のような重い話題で暗くせず、あたりさわりのない明るい話題をして、楽しくすごしたい」という答えでした。

4　このふたつの答えはリンクしています。〝相談して友人関係に重い空気が流れたり、上下関係ができると、楽しくなくなるし、一段下の立場になったひとは傷ついてしまう。だからこそ友人には相談しない〟というわけです。

5　対等性の原則を示す別の例として、価値観や意見の押しつけにたいする強い①嫌悪感、があげられるでしょう。価値観・意見の押しつけは、現代人がもっとも嫌うことのひとつです。価値観や意見を述べるだけで、そのつもりはないのに「押しつけ」と受けとられることも多いようです。

6　このような②フンイキができあがっているのも、対等性の原則が強化してきて、上下関係になりそうなことがらに敏感になってきているからです。つまり、意見や価値観を表明するひとが上位・優位を③占め、それを聞かされる側が下位・劣位にいるかのように感じるのです。意見を聞かされる側は、その意見に自分をあわせないといけないかのように感じ、それが下位・劣位にいる自分を思わせるのでしょう。だから、押しつけと感じ、強い嫌悪感を持つわけです。

7　もうひとつの例をあげましょう。いつのまにか定着した言いまわしに「上から目線」があります。「〇〇は、〝上から目線〟でもの言うから、めっちゃムカつく！」などという表現をしばしば聞きます。偉そうな話し方をする相手の態度を批判しているのです。

「上から目線」が定着したのも、身近な人間関係における対等性へのこだわりがあるからです。相手が対等な関係を持とうとしているかどうかに敏感だからこそ、「上から目線」という表現が日常会話にひんぱんに登場してくるのです。

さらに別の例をあげます。大学一年生が入学当初、大学で知りあったひととどんな話をして盛りあがっていると思いますか。彼らは熱心に、高校時代の偏差値について話しているのです。〝高校〜年生のときは、模試で偏差値〇〇だったけど、そのあと△△にさがって……〟といった話です。

どうしてこういう話題に熱心なのでしょう。不本意入学したという思いから、〝ほんとうはもっと偏差値の高い大学に入れたんだぞ〟と

いうことを暗に示しているのかもしれません。しかしわたしの考えでは、偏差値の対等なひとを友人にしたいと無意識のうちに思って、それで高校時代の偏差値についての情報交換をしているのです。たとえば、ある男子大学生は「受験偏差値プラスマイナス5前後の大学生と入学後も付き合う」と語っています（原孝『喋りたい若者たち　喋らせない大人たち』文眞堂）。

対等性の原則にこだわるひとたちの様子が、わかってもらえたでしょうか。

対等性の原則は、あらゆる差異を認めないわけではありません。例えば[2]横の差異は認めます。縦の差異、上下の差異が容認できないのです。

横の差異は、ファッションや身につけるもの、趣味の違いなどを意味します。それら横の差異も、縦の差異になりえます。たとえば、センスの良し悪し、家庭の経済状態の格差などによって、ファッションセンスの良いひと／悪いひと、というふうに縦の差異が生じるおそれがあります。じっさい、街を歩いているときや大学構内で、たがいに相手のファッションや持ち物、④ケショウの仕方などを一瞬のうちに格づけしあい、「勝った！」「負けた……」と、こころのなかで一［A］一［B］している女性は多いようです。

けれども、友人といるときには、どんなにこころのなかで「勝った」と思っても、対等性の原則に従う彼ら・彼女らが、それを表にだすことはありません。そういった縦の差異を〝趣味が違うから〟というふうに、横の差異へと変換して、上下関係が表面化しないよう⑤ハイリョするのです。

出典　森真一　『ほんとはこわい「やさしさ社会」』より

問一　①～⑤のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二　［A］・［B］にそれぞれ漢字一字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

問三　形式段落7は「もうひとつの例」を述べているが、流れからすれば、2・3群の例、5・6群の例のどちらの例が当てはまるか答えなさい。

問四　[1]〝上から目線〟でもの言うとあるが、どのような考え方に基づいて「上から目線」と言えるのか、二十字以内で答えなさい。

問五　[2]横の差異は認めますとあるが、その理由を、「趣味」という言葉を使って三十字以内で説明しなさい。

問六　この文章で、現代の若者は対人関係においてどのような状態にあると指摘されているか。その説明として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア　相手とのバランスを強く意識するあまり、自分に自信がなくなってしまっている。

イ　相手に嫌われないために、自分と相手との距離の微妙な調整をしている。

ウ　悩みを持つことは、そのまま他者からのけ者にされると固く信じている。

エ　ファッションや趣味でも、他者との心理的競争に明け暮れ、自分を見失っている。

オ　相手との間で上下の関係がつかないよう、心理面でも生活面でも神経を使っている。

一般選抜試験（B日程）問題

現代の国語（六十分）

第二問

引用文　柳澤　桂子　『脳が考える脳　「想像力」のふしぎ』

著作権の関係で掲載不可

参　考

問題形式　長文解説問題

設問数　六問

設置内容　問一　漢字の書取と読み（五問）

問二　該当部分意味説明（記号選択）

問三　文中空欄に該当する語句を入れる（記号選択）

問四　該当部分意味説明（三十字以内）

問五　出題長文問題内容の特色説明（記号選択）

問六　出題長文問題内容で著者がいっていることについて自分の考えを述べる（百二十字～百六十字以内）

一般選抜試験（B日程）解答例

現代の国語

（服飾文化専攻、健康栄養学専攻）

第一問

問一

① けんお

② 雰囲気

③ し

④ 化粧

⑤ 配慮

問二

A 喜

B 憂

問三

5・6 群の例

問四

意見や価値感を表明する人が上である　　という考え方

問五

「趣味が違う」という言い方で上下関係を表面化させないから。

問六

オ